



金沢市デジタル推進アクションプラン（仮）に関する提言書  
- データ駆動型地域によるDX推進の強化 -

令和4年12月5日

一般社団法人コード・フォー・カナザワ（Code for Kanazawa） 代表理事  
デジタル庁オープンデータ伝道師  
総務省地域情報化アドバイザー  
福島 健一郎

# 提言の概要

金沢市デジタル戦略2.0を経て、金沢市はDX人材育成、フリーアドレス、RPA、シビックテック、結ネット、こどもプログラミングスクールなど様々な取組がしっかりと実現、それをさらに継続できる形となっている。

本提言は、続くアクションプランを確実に実現するためのベースとなるものとして、ありがたい姿をさらに加速するために必要なものをご提案させていただく。

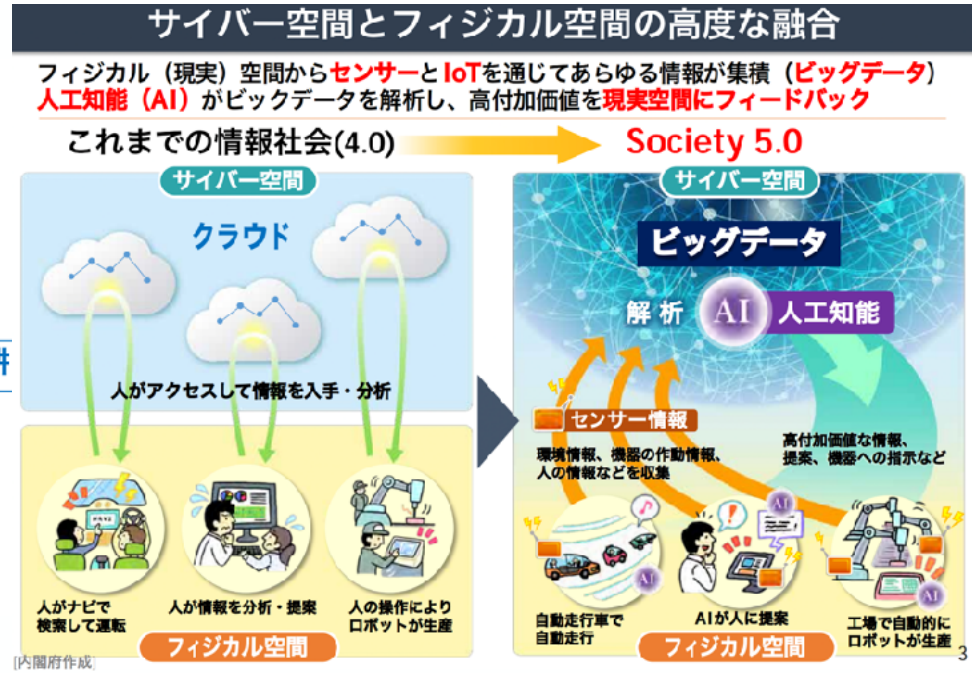
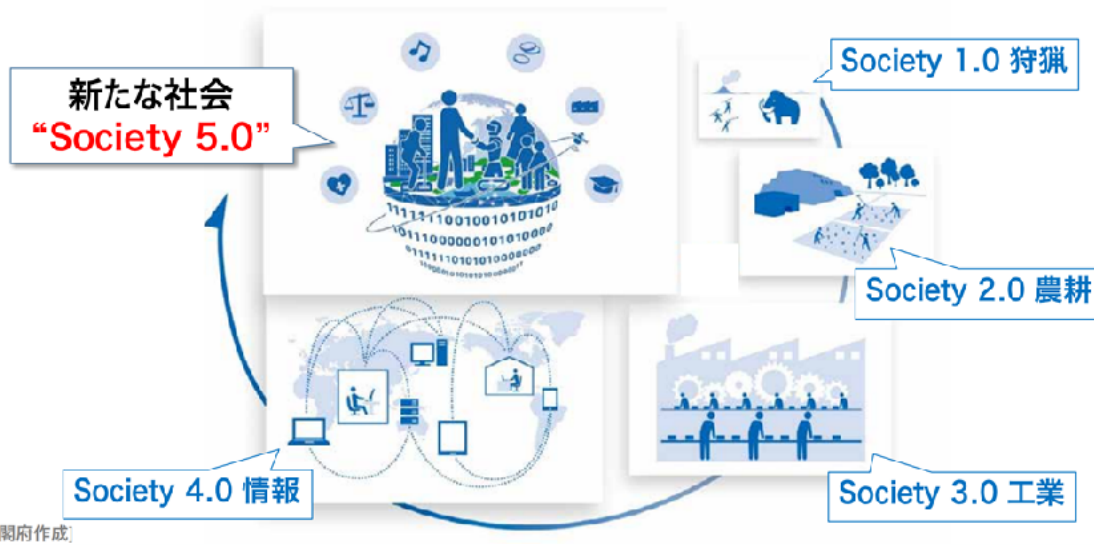
## 提言1：データマネジメントシティ KANAZAWAの確立

データを情報資産と捉え、生成から運用、利活用までを持続的におこなう仕組みの構築

## 提言2：データ利活用の推進

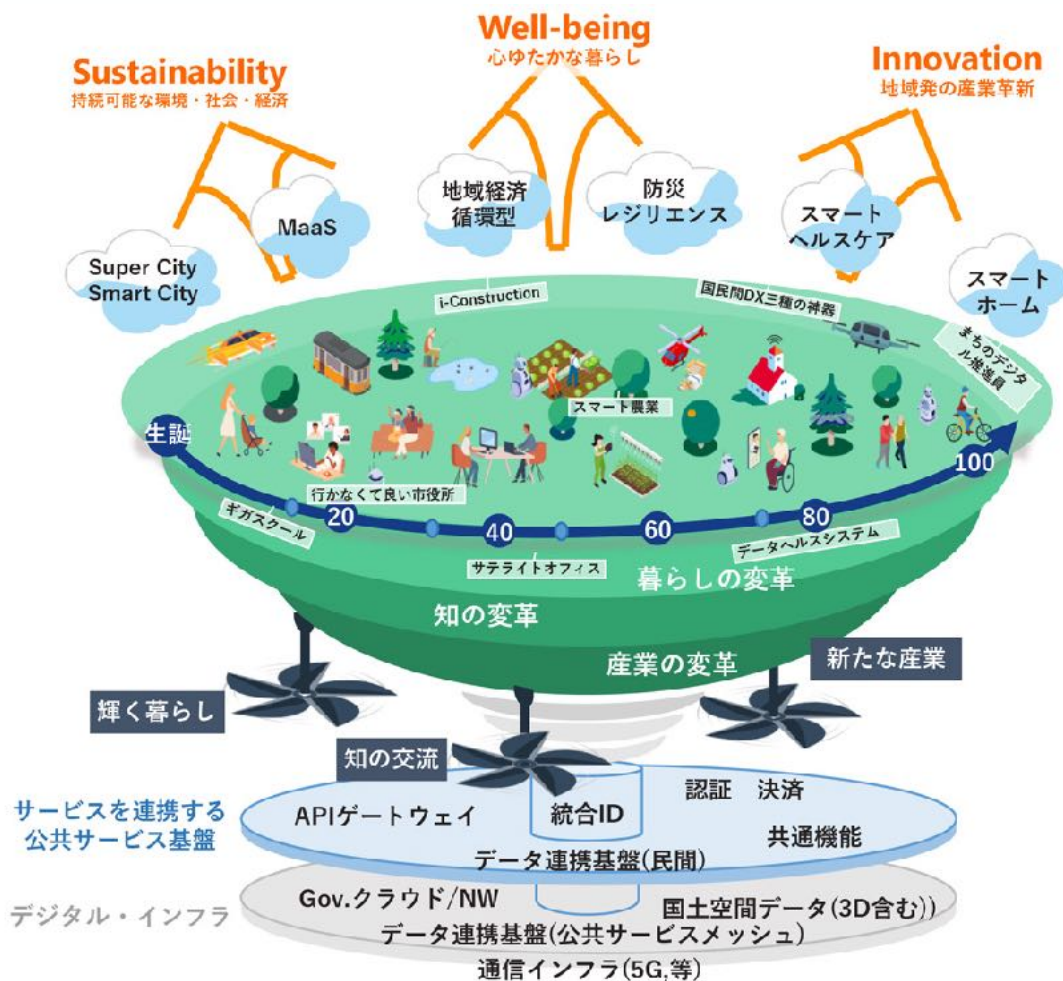
データを利活用できる企業、団体、教育機関、市民の育成を支援

## Society 5.0



日本が目指す未来社会の形として、Society5.0が掲げられている。  
これはサイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたデジタルツインにより、経済発展と社会課題解決を実現しながら持続可能な社会を創る人間中心の社会を目指したものである。  
それは人間が自身の力でICTを利用してサービスを受ける形ではなく、各種データなどからサイバー空間内でAIなどが判断し、人間にサービスを提供する考え方を指している。

# デジタル田園都市国家構想



Society 5.0のコンセプトのもと、デジタルの力を全面的に活用することで、地方が地域の個性と豊かさを生かし、都市部と同等以上の生産性・利便性も兼ね備えることとする

「デジタル田園都市国家構想」の実現が政府によって目指されている。

“Society 5.0 の前提となるデジタル化については、あらゆる分野でIT化を進めていたものの、既存の業務の効率性の向上を目指す取組が中心となり、諸外国のようなデータ連携・活用による新たなビジネスモデルの創出などは十分に行えず、ICTの持つ本来の力を十分に生かし切れていなかった。（中略）分野を跨いだリアルタイムでのデータ収集・分析・活用を行う環境が整っていないなど、Society 5.0 の実現に向けた基盤整備へのスピード感や危機感が欠如していた。”

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」（2021-2025）より

「第5期科学技術・イノベーション基本計画」（2016-2020）で掲げられたSociety5.0は、今期の第6期基本計画で取組の反省とその理由が分析されている。

つまり、デジタル化の恩恵を受けていくためには、

「データの収集・分析・活用ができる環境作り」、「分野間連携、リアルタイム性」、  
「その受け皿となる基盤整備」  
が大変重要であることが分かる

しかし、これはシステムを導入すればできる話ではない

## 3-2 新計画の体系

◎重点項目◎  
 ・デジタル人材 ・都市OS ・WEB3.0

	教育	文化	産業	地域
<p><b>1</b> <b>くらしのDX</b>                      地域活動や日常生活をデジタルの力でより便利に、より快適に。</p>	<p>誰もが学ぶことをあきらめない環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育オンライン相談窓口</li> <li>子育てアプリ</li> </ul>	<p>文化・芸術・スポーツに触れる豊かな暮らしを創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルミュージアム検討</li> <li>金沢JAZZ STREET</li> <li>金沢マラソン</li> </ul>	<p>経済活動のデジタル化により、生活の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ECサイト導入支援</li> <li>中小企業等AI等技術活用推進</li> <li>金沢MaaSコンソーシアム</li> </ul>	<p>地域活動に参加しやすく共助を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共創プラットフォーム</li> <li>町会活動等のデジタル化</li> <li>公民館のデジタル化</li> </ul>
<p><b>2</b> <b>そだちのDX</b>                      デジタル知識や技術の習得をデジタルの活用力につなげ、人間力・企業力の向上を。</p>	<p>全ての世代が学び、成長できる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAスクール構想の推進</li> <li>市立工業高校のデジタル化</li> <li>保育・教育現場のデジタル化</li> </ul>	<p>文化・芸術・スポーツの裾野拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童向けデジタル教材</li> <li>生涯学習ポータルサイト</li> </ul>	<p>企業や企業人のデジタル人材育成の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小規模事業者等デジタル技術活用人材育成事業</li> <li>金沢IT部活事業</li> </ul>	<p>デジタルデバイドを解消し、全ての人々がデジタルの恩恵を享受</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者スマホ教室開催</li> <li>ICT技術市民生活実践モデル事業</li> <li>市民活動DX推進事業</li> </ul>
<p><b>3</b> <b>ゆかりのDX</b>                      デジタルを通じた様々な主体との連携強化により協働・共創で発展する社会へ。</p>	<p>大学連携を推進し、若者が活躍する場を創設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未来へつなぐ金沢行動会議</li> <li>ものづくり産学連携事業</li> </ul>	<p>デジタルでまちがアートを育む取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル工芸展</li> <li>金沢ジャズアカデミー</li> </ul>	<p>産学官連携をデジタルにより促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産学連携のつり技校交流塾</li> <li>デジタル活用観光誘客向上事業</li> </ul>	<p>シビックテックを推進し協働により地域課題を解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3Rデジタルコミック発信事業</li> <li>移住ネットワーク公式SNS開設</li> </ul>

上記の取組の多くが、様々なデータを必要とし、様々なデータを生み出す可能性が高い  
 そのデータはどうやって入手し、どうやって保管と利活用を進めるのか？

## 提言1：データマネジメントシティ KANAZAWAの確立

新計画体系で掲げられているサービスの実現のために、  
データが生成され、管理され、公開される組織への変革（DX）が必要

1. 金沢市がデータマネジメントをおこなえる組織となるべく、  
データ管理規程に類するものを定義し、全庁的にデータに関する統一ルール  
で価値の高いデータを生み出し公開していけるようにする
2. （公共で最も価値の高い）オープンデータも合わせて強力に推進する
3. DX人材育成研修のなかで、データ研修教育にさらに厚みを出す  
データは日々創られている、待ったなし

※データマネジメント（デジタル庁資料より引用）

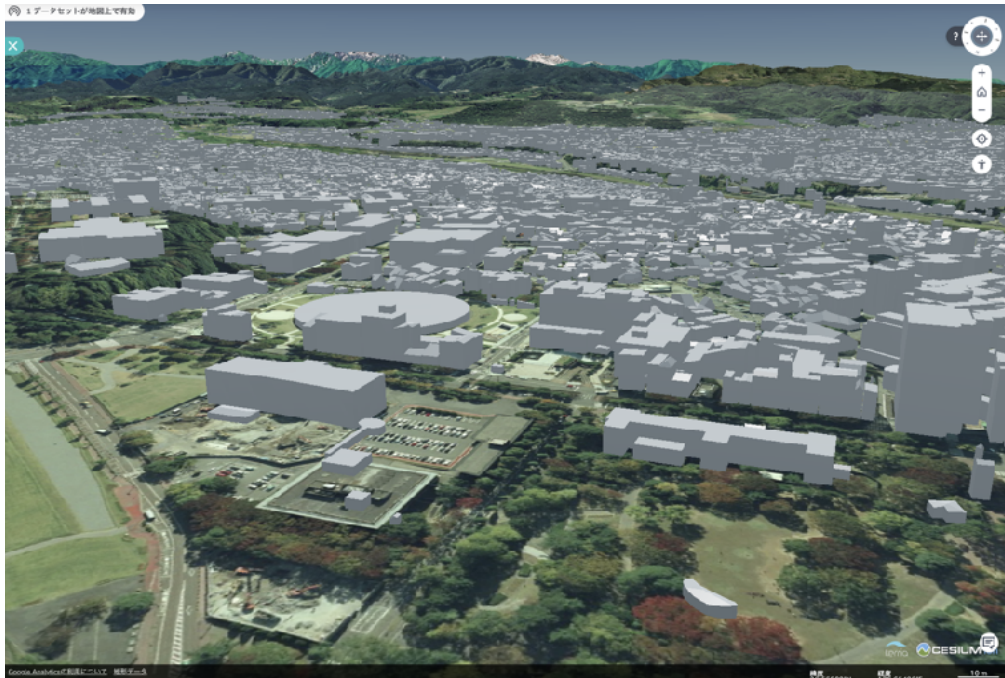
「公共の活動における成果（価値）を最大化させるため、データの重要性に着目し、データを情報資産として捉え、その利活用戦略からシステム実装に向けた設計や開発、さらに稼働後の運用、利用に至るまでのデータ品質の維持・向上をベースとした継続的、組織的な活動のこと」

## 提言1 補足：都市OS データ連携基盤について

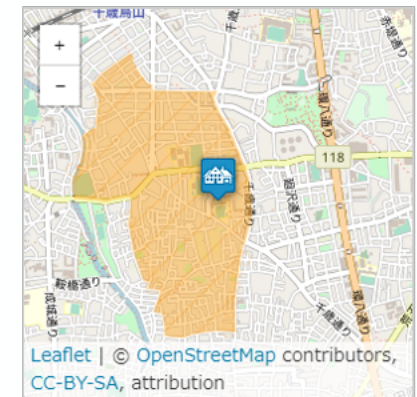
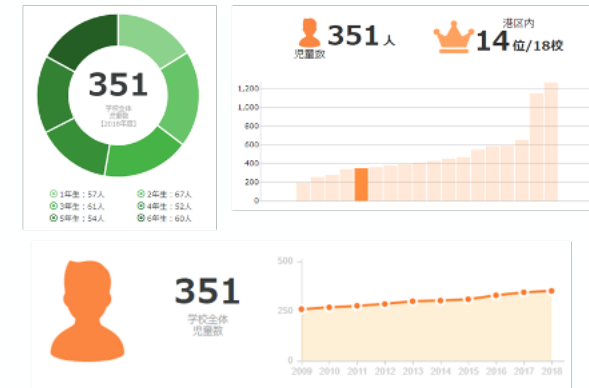
- オープン/標準/相互連携を常に念頭に
- データ連携基盤を含む都市OSを何にするかは実装手段でしかない  
システムが大事ではない、中に入るデータを創る仕組みが大事
- まず、金沢市はどんな都市になりたいかをしっかり検討する  
(どんなスマートシティを実現したいか)
- とは言え、試せるところは小さく試す (どんどん試す)  
ケースを決めてβ版として創っていく
- DX化が進む庁内サービスについてはこの議論の中にしっかり入る  
(独自でやらない)
- 政府からGIFや行政サービス連携モデルをはじめ、標準化されているものは多い  
今後も改良などされていくため、柔軟性をもって構築していく  
(自治体からもどんどん提案すれば良い)
- 市民が創るデータも基盤に載せられるよう検討をする  
(データの創り手すら全て行政である必要もない)



# 提言2 データ利活用の推進



Plateau（国交省）の3Dオープンデータによる金沢市  
ゲームやメタバースなどに利用



株式会社ガッコムの教育情報サイト  
学校や子育てに関するオープンデータを組み合わせる

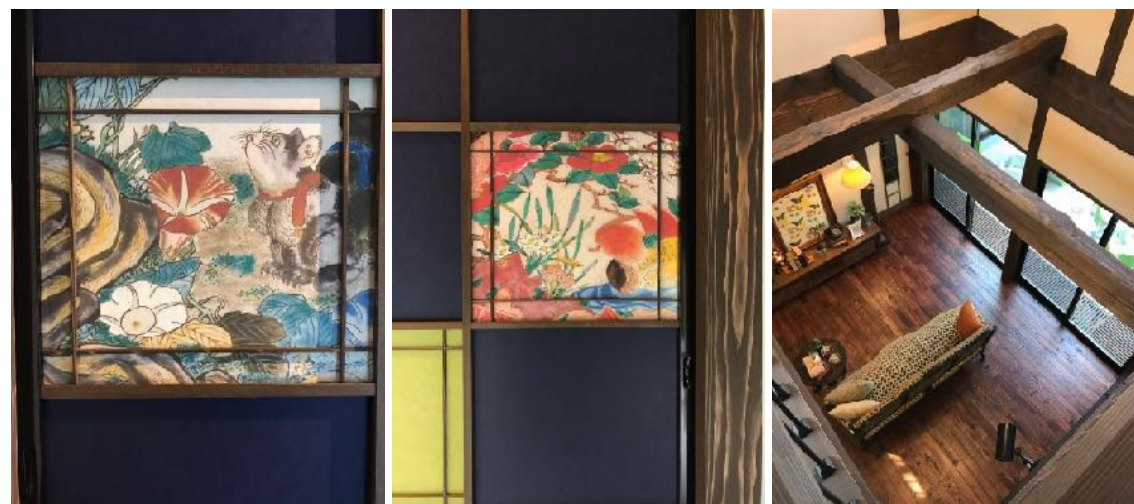
データを中心としたビジネスやサービス構築が増えている  
観光業界や飲食、様々な業界で「勘や経験で判断する」のではなく「データで判断する」企業に  
変革を遂げるためにDXを利用し始めている

2022年、世界26カ国7業界で10億ドル以上の売上を誇る企業経営層へのEYの調査で、  
53%（首位）が「データ&アナリティクスが今後2年間の最大投資分野の可能性が高い」と回答

# 提言2 データ利活用の推進



文化や芸術に関するデータも様々な利用  
2020年に正式公開されたJAPAN SEARCH  
2013年に公開された九谷焼オープンデータ  
など、こうしたデータを利用した商品開発  
も進んでいる



特に海外においても高い価値を生み出せる  
文化や芸術のデータ利活用は企業のみならず、教育機関や市民活動など幅広い利用ができる

### 提言2：データ利活用の推進

データをベースにした金沢市ができるに伴い、そのデータを最大限利活用する企業、教育機関、団体、市民などを生み出していく  
それがひいては地域の発展に寄与する

1. まずは、**提言1**によって金沢市から多くのデータが利用できるようになる
2. さらに、対象別に基礎的なデータ利活用研修を実施する
3. 金沢市自身がデータを活用して政策を実施していることを見せていくことでデータ利活用推進者を増やしていく
4. データセントリックな企業への産業支援を強めていく
5. 企業や市民等からデータを公開、または関係者と共有することで新しいビジネスやサービスが生まれることを事例として発信していく  
**そして地域のデータは地域で創り、守る**



*Code for Kanazawa*

コードで世界をHappyに

Code for Kanazawa